

	<p>の本音が出ているなど思った。前回の審議会で委員の皆さんともお話した中で、(南砺市が)古い体質を変えられていない、そういったジレンマが出ていたと思う。それも南砺市の現実であり、その中で子ども世代を中心に、これから南砺市民がどうよりよい生活をしていくかを見直すためには大変いいアンケート結果だと思った。後程皆さんと一緒に、このアンケート結果をもとに議論を進め、いい見直しができるようにしたい。</p>
(3)付議事項	<p>(1)南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の内容について</p> <p>委員4名または5名の2グループに分かれ、南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の内容について感じたことや、検討が必要な項目について議論(25分間)</p> <p>各グループからの発言は次のとおり。</p> <p>A委員(B委員、C委員、D委員)：</p> <p>男女の平等感について議論している中で、小規模多機能自治の話があった。地域人材は男性の方が多い状況であり、やらされている感がある。市民活動が活発かどうかというそうではない地域もあり、ここには地域差がある。</p> <p>プラン(第2次)の P31 にある「南砺市らしさ」という言葉について、若者・子育て世代向けアンケートの結果からみても明らかだが、この言葉自体が男女共同参画の方向性とは真逆のことを言っているのではないかという意見があった。</p> <p>E委員(F委員、G委員、H副会長、I委員)</p> <p>今、「南砺市らしさ」の話があったが、こちらのグループでも合力(コーリヤク)といった精神と、男女共同や男尊女卑といった言葉は同じことではなく、別として考えた方がいいのではないかという意見があった。</p> <p>また、プラン(第2次)の P35 の施策の体系についても議論した。今、中学校ではSDGsについて一生懸命取り組んでおられ、教育という面では、自分たちが中学生だった頃からみるとはるかに取り組みが進んでいる。基本目標がたくさんありすぎて、1つに絞って考えた方がいいのではという意見があった。基本目標5「男女共同参画社会を推進する体制づくり」にある、「男女共同参画推進員の地域リーダーとしての役割を果たす取り組み」というところを中心に、地域で本気で取り組んでいただける人材やグループを目標に持っていけばどうかという意見が出た。</p> <p>渡邊会長：</p> <p>短い間でいい議論が出来たと思う。共通した問題意識だと思った。これについては次回以降も、もう少し具体的に形にしていけたらと思う。</p> <p>(2)若者・子育て世代向けアンケートの結果について</p> <p>事務局より資料を元に説明。</p> <p>委員からの質問や意見、事務局の応答は次のとおり。</p> <p>A委員：</p> <p>アンケートをみて、家事育児に関して女性の負担が多いという意見は、今の市の状況</p>

をみると確かにそうだろうなと思った。もう1つ、地域の中で、消防団の話もあったが、男性が不平等感を感じている。地域の役職が男性に偏っている意識がかなり強い。男女で意識差があるのは当然だが、男女平等に関して取り組むときに、女性側はもちろんだが、男性側の感じているところに関しても取り組んでいかなければいけないと感じた。

I委員:

「ご家庭において、性別による不平等を感じる時はありますか。」という質問に対し、「よくある」「たまにある」が 34%で、「あまりない」「全くない」が 61.3%という比率をみて、不平等感を感じていない人の比率が意外とあると感じた。

気になったのは、地域活動に関する質問において、「婦人会などの活動で、暗黙のルールのようなものが存在する。」「世代が幅広い地域では、若い世代には発言する勇気も持てない。」といった意見があり、言い当てられていると感じた。

E委員:

「女性は子育てで忙しいからと言って、色々な役員や話し合いの場によんでもらえること自体が少ない」という回答があり、一番の当事者である若い世代が地域の会合に出ていけたら、と感じた。「年配の方々が集まって議論して、私たち子育て世代の声を本当に反映してくれているのか疑問」という回答もあったので、アンケートに回答いただくだけでなく、子育て真っただ中の方も(議論の中に)一緒に加わられた方が。ただその場合は、負担のかからないような配慮も必要だと思う。

先ほど委員から、「不平等感を感じていない人の比率が意外とある」とあったが、私もそのように感じた。しかし、これは不平等感を感じていないというよりも、諦めてしまっている、仕方がないという意識が働いているのではないかと。不満を感じておられる方はたくさんいると思う。言って変えていく事は非常にエネルギーのいることだし、喧嘩や口論になってしまい、疲れることもあるので、仕方がないと思っておられる方が多いのではないかと感じた。

B委員:

事なかれ主義でもないが、言っても変わらないという思いになってしまい、それでバランスが取れ、うまくいっていると思っている人も中にはいる。それが南砺市らしさかというところではない。

このアンケートを回答してくださった方々は、嘘偽りのない率直な意見を書いてくださっていると思う。こういうことを意識しないようにしている人がいることが南砺市には多いのではないかと気がする。不満を言ってしまうと面倒だと感じ、一步引いて、うまくいっている。本当にそれでいいのか。

D委員:

「市長が低所得でも幸せに暮らせる南砺市と言っていたことが忘れられない。」という回答があった。そういったことを市長が言われたことは、私はここで初めて知った。関連して、「一流の田舎」「南砺市らしさ」といった言葉は男女共同参画につながるとは思えない。ローカルなことを盛り込もうとすると、非常に違った感覚に捉えられてしまう。「南

砺市らしいのだな、これが」という風に受け取られかねない。(プランには)もっと普遍的なことだけを入れておけばいいと感じた。

B委員:

「一流の田舎」についても、総合計画で様々な議論があったが、市長の説明を聞くとそういった考え方もいいと思う。絶対反対ということではない。ただ、共通したイメージが持てない言葉をプランに入れるのはどうかと思う。キャッチコピーとして入れるのにはいいだろうが、プランのように、実行していかなければいけないものの中に、みんなのイメージが一致していない言葉を入れるのは良くないと思う。当初どういった経緯で「南砺市らしさ」をプランに入れようという議論になったかは分からないし、南砺市を良くしていこうとして入れたのだと思うが、今回アンケートを見て、むしろ、この「南砺市らしさ」に押さえつけられてきた人たちのうっぷんをリアルに感じた気がした。「南砺市らしさ」で表向きは収まっているかもしれないけれど、一人一人がこういう風に思いながら日々暮らしていいののかということ、この審議会でも議論していけたらいいなとすごく思った。

子育てのところで圧倒的に家事は女性だということもあるし、核家族、ワンオペで大変という方もいらっしやっし、職場に関しては男性の方のご意見も多かったこともあり、一昔前は男女共同参画というと女性の問題だったが、(アンケートを見ると)全くそうではないなと感じた。

G委員:

表裏一体というか、女性の問題でもあるが、その裏側には男性が強いられている部分もある。今回のアンケートをみても、男性の方が「力仕事は男だけがやる」とか、「女は定時、男は残業が当たり前」とか、女性管理職が少ないといった回答があり、若い世代を中心に聞いているため、昔だとそれが当たり前で、特に男性ならそれを誇らしく思っていたことも、この世代の方たちにとっては、それはおかしい、男性も早く帰るようにしてほしいと思っておられるというのが見えてきた。

南砺市は富山県全体の中でも男女不平等で、「男は外、女は内」といった意見に賛同しがちな傾向があるという地域であるけれども、若い世代は違和感を出しておられるということが見え、この世代に光を当てて、もっと意見が言えるようにしていくことが大事だと思った。

H委員:

このアンケート結果は公表されるのか。もっとうまくまとめて、広く市民に出してもらいたい。いい意見もあり、同じように考えておられる人がこれだけいるというのが見えた方がいいと思う。

事務局:

どのような形で公表すべきか、悩んでいるところである。

渡邊会長:

市民意識調査のような規模のものではないので、そのまま公表するものではないと思

うが、このアンケートはこれからプラン(第2次)を見直していく中で、具体的な視点の根拠となるもの。当然、見直し案を出す際には理由も必要であり、このアンケートにこういったご意見があったということを出していくことになるだろう。むしろ、こういう考え方についてどう考えるかと、もう少し広く問いかける作業も必要である。

今回はインターネットによる回答だったため、気楽に回答いただけたことは大きな発見でもある。

A委員:

男女共同参画についての情報発信をしていかなければならない。市報の中に男女共同参画についてのページがあってもいいのではないか。

アンケートに関して、こういう意見があった、これについてどう思いますか?ということ、家庭の中において、当事者が考える機会をもつようなページでもいいだろう。広く意見を求める形をとってもいいかもしれない。このような投げかけをすると、すごく反響があり、広い世代から意見がくるかもしれない。

B委員:

若い世代の中でも、今回回答いただいた方は9割が既婚者だったので、未婚の方の意見も吸い上げられたらと思う。

第1回審議会の中で市民協働部長がお話しされたように、南砺市において若い女性の流出率が多く、その結果人口減少が進んでいることは事実であり、人口が減る＝市が廃れていってしまうが、それを全面に出すと、南砺市に人を増やすための目的なのか?となる。それはそうだが、自分の意見、自分の幸せと結びつかない人が特に若い世代に結構いると思う。そんなことは関係ない、自分が幸せになりたい、そういった意見も知りたい。

子育てをしていない若い方に、どういった方法で意見を求めるかは難しいが、そういう人たちのリアルな意見を引き出せる方法が何かないかと思う。結婚している人は、とりあえずは流出しない人が多い。出ていってしまう可能性の高い、若い独身の人が実際どう考えているのだろうか。

A委員:

未婚化・晩婚化の理由についての質問の回答として「仕事、家庭、育児それぞれに対する負担や拘束力が大きい」とあり、また別の、地域活動についての質問の回答の中で「コロナ禍で行わなかった行事はすべて無駄である」とあり、やらなくてはいけないという拘束力や、地域でこうしなければならないという縛りを感じているのではないかと思った。地域により資源や人材が限られている中での縛りもあるのかもしれない。それを、今の若い世代は望んでいるのだろうか。地域とのつながりという面では悪いことではないように聞こえるが、人によっては拘束されているように感じる人もいるだろう。

また、役員の選出の際、できないと避けられる方が多くなった。これも価値観の変化なのかなどは思うが、地域での義務を拘束力と感じる方が若い世代になればなるほど多いのではないか。

I委員：

強制的に、動員をかけて何かをやると、地域においてもものすごく反発を生む。どれだけ言っても、関わった方も自分事にならない。その時だけやればいいと感じ、なかなか続かない。何か物事を起こすときは、何を目的とし、どういった思いがあるか、英語で言う「Why?」の部分を相手に伝えて携わっていただくことが大事だと思っている。「～～してよ」、「～～やるから来て」という呼びかけだと、思いや目的が伝わらない。目的をどう伝えるかが、自分も苦心しているところ。どう賛同してもらえるかが大事である。

男女共同参画についても、目に見えているところだけ伝えるのではなく、どういう思いで取り組むのかを伝えられる方が多くなれば、共感も広がっていくと思う。何をやるにしてもやらされていると思うか、自分がやっていると思うかにより、全然違う。いかに自分の意識として動くかが大切である。

G委員：

地域では役員の人たちから、「これがあるから参加してください」というが、女性たちは既に決められたものに参加していることが多く、決めているのは男性がメインである。南砺市は小規模多機能自治に取り組む中で女性が議論に混ざること増えてきたとは思いますが、これまでのことをいうと(女性は)企画のところから関わっているのではなく、例えば防災訓練とかでも、もう決まっていることだけに集められてきた。「どんな防災訓練にしたらいですか」「アイデアのある方は来てくれませんか」と投げかけがあれば良い。

B委員：

やはり、共感がないと動かないと思う。人間が動くのは、お金(報酬)や強制・罰、そして共感の3つのパターンがあり、やはり共感がないと広がりが無い。毎年同じことをやるにしても、何のためにやるのか、主催する会長等が自分の口から自分の言葉で誘うことが大切。そうすることで、来る人も納得があり、ちょっと参加してみようと思うだろう。

今の時代、割と合理的になり、コロナ禍が理由ということもあるが、そういった(自分の言葉で誘うような)時間がそぎ落とされている。また、女の人が偏った作業ばかりに割り当てられることが多いというのも、そうかもしれない。

昔は文で書いて封書で出すのが略式だったが、今はLINEのような、より身近に感じるツールを使用し、つながることで、趣旨を丁寧に説明できる。その方が若い人に届きやすい。

「かまってほしくない」というのは、若い人の方が傾向が強いのもかもしれないが、ある町内の会長いわく、独居老人等、高齢者の中でもそういった人が多い。拘束力を感じさせるのではなく、つながっているという共感をもってもらうことが大事。そういう面で、いい意味で南砺市らしさとなれば良いと思う。

このアンケートをみると、職場ではパワハラ・セクハラ、育休等、(男女共同参画社会実現に向けた取り組みが)制度や権利として決まっているけれど、家庭や地域では性別的役割分担意識が強い。地域全体で取り組んでいく風潮をつくれると、プランが前向きに進むと思った。

I委員:

地域の長老の方々は男女共同参画の話をもう十分に知っておられるが、あまり意識として入っていない。そこを変えていけば随分変わると思う。

A委員:

私自身20代のころから地域活動によく出ていたが、何かを発言しても「これは昔からこうだからできない」などと否定されることが多かった。今でも地域の中でそう言う人も多いのではないか。昔そうだったのはそれでいいが、時代が変わってきている。地域の中で意識が働いていないところをどうしていくか。

D委員:

皆さんもおっしゃる通り、地域の長老の方々は(男女共同参画の話を十分に)知っている。それがどう地域にいきわたるかという話について、プラン(第2次)の指標をみると、セミナー開催回数実績等があるが、そうではなく、地域の長老や男女共同参画推進員等がどれだけ地域で説明等の機会を与え、地域の人が理解しようとしたかが大切。役割をする人の数ではなく、どのように地域の一人一人に意識がいきわたるかを指標にしなければいけないと思う。

B委員:

先日、市主催の男女共同参画勉強会に参加した。そこでも感じたが、地域づくり協議会側も、男女共同参画に熱心な人材(リーダー)をうまく見つけて選出することが大事なのでは。リーダー研修をやるべき。

G委員:

男女共同参画勉強会について、地域づくり協議会の役員と男女共同参画推進員と一緒に研修されたのはいいセッティングだったと思う。男女共同参画推進員だけで話すのではなく、地域に持ち帰るために役員にもわかっていただかないといけない。一緒に学び合うことができるのはとてもいいことである。

アンケートの回答の中に「女性が意見を言える場を設けてほしい」ということを書いておられる方もおられた。よく女性リーダーの研修はあるが、本当は男性のリーダー層の人達にも理解してもらわなければならないべきであり、合わせていきたい。

渡邊会長:

地域のことも含め、今日は総論的な意見だったが、今日でた意見をどうプラン(第2次)に盛り込んでいくか、次回以降具体的にしていけたらいいと思う。

今回のアンケートでは、未婚の若い人の意見が救い上げられていない。その人たちがどのように思っているのかも必要である。

G委員:

流出する人は、高校卒業後、大学進学、就職等で県外に出て行って帰ってこない。今おられる方は、留まっている。

I委員：

私も、大学卒業後就職し、10年ほど県外にいて、南砺市に帰ってきたが、何事に関しても(価値観が)古くて驚いた。

B委員：

若い人に対して、帰ってきてほしいとは思いますが、都会や国外に出て活躍するのもいいと思う。ここに住み続けなければいけないことはない。帰ってきてという価値観を押し付けることは嫌なことだと思う。あまりそこにこだわって発信すると、若い人も嫌に感じるだろう。

G委員：

子どもが自分で、いつかは帰ってきてまちづくりをしたいと思うような体験、意見を言ったら聞いてもらえるような体験が大切。

B委員：

地域につながっていると、友達がいたりとか、自分の所属意識が小さいころからあれば違うと思う。都会で活躍していても、何かあったら帰るところがあるというのはすごく力になると思う。

D委員：

まさにその通りだと思う。2年前に成人式で話す機会があった。通り一遍、皆さん、南砺市に帰ってきてくださいと言っていた。私は、常に自分の可能性を求めて活躍してくださいと伝えた。今はどこにでもインターネット等、つながれるツールがある。南砺市ともネットを通してつながれる。そういうところで興味をもってもらうことで、南砺市に帰ろうという思いになる。そう思った時に南砺市が、自分の育った街に帰り、まちづくりをしようという気になるようなことを発信していくべき。南砺市に残ってくださいということを言い続けるのは大反対だ。

G委員：

そういった時に、A委員のように、色々提案したことを否定されるようなことがあると、ここでは無理だと思ってしまうだろう。

D委員：

(南砺市や、地域で)おもしろいことをやっているなということを発信していかなければいけない。

I委員：

私も地域の団体での活動をSNS等で発信しているが、地元が南砺市で、仕事は東京だが南砺市でも何か事業をしたいという方から連絡があった。彼らとはオンラインで打ち合わせをしている。東京に住みながらも南砺市で事業することができるようになっている。

B委員：

確かに、(都会と南砺市とで)二拠点生活をする方が増えてきている。

I委員：

(自分自身は県外に住んでいても、)親が南砺市にいるから、そこで何かをしたいという人もでてきている。やはり、つながりを持てたらと思う。

D委員：

地域のルール、万雑などの負担について、移住者にもあらかじめ説明しなければいけない。昔からいる人は知っているからいいが、新しく来られる人は分からない。

I委員：

県では、「地域の教科書」といったものがある。地域のルールを明文化した方がいい。

C委員：

万雑の話は地域によって違う。売る側や紹介する側にも責任がある。知らずに来た方には、あらかじめ地域の教科書だけでなく、その家の教科書があればトラブルの回避になると思う。あると知ってくるのと、知らないのとでは意識的にも違う。

B委員：

南砺市は割と、移住者に対してウェルカムで、よそ者を阻害する雰囲気はない地域だと思う。

G委員：

移住者の女性は子育てネットワークをつくるなど、色々頑張っておられる。地域の会合で何かを発言されたときに、家に帰ると舅から「でしゃばるな」と言われたようであるが、地域の会合で意見を言うことは素晴らしいことである。

B委員：

舅さん、親世代、おじいちゃん世代で、「ここはそうではないからだまっていなさい」という人は確かに多い。

A委員：

地域の教科書の話があったが、地域づくり協議会ごとに教科書があればいいかもしれない。

I委員：

自分の地域で作ってみると、これは変ではないかということができそう。

A委員：

地域によっては、成功事例もある。地域で具体的にどう行動していくかという指針をた

ててもらうのもいいと思う。

B委員：

いいと思う。そういうものを地域で作ってあげれば、ダメなこともみんなで申し合わせられる。

G委員：

そういった事例を漫画にしていくのもいいと思う。

A委員：

地域で作ったものを他の地域と比べてみることで、ここはおかしい、視点がずれているという気づきを得られ、検討いただける。

地域の活動の中だけでなく、それは家庭でも同じだという方向で浸透していくのも一つの手だと思う。

I委員：

それを4コマ漫画風に描いてもらい、市報に載せるのもいいかもしれない。

B委員：

家庭の中で圧をかけられている方にも振り返っていただき、それを次の世代にさせないよう自分の世代で断ち切りましょうということを話し合える機会があると、気づくことが出来ると思う。これまで感じてきたことが幸せだったのか、地域で話し合う。そこでは、男女共同参画推進員がファシリテートし、指導・助言・軌道修正していくべきだろう。

I委員：

そういう研修会の方が共感を得やすいだろう。

D委員：

それはやらないといけないと思う。いくら男女共同参画推進員だけが勉強しても、地域に入っていくかない。

A委員：

先ほどの漫画の話でいうと、イラストに対して、考えを促すようなコメントを載せて啓発に使うことは、効果的だと思う。

B委員：

先日の男女共同参画勉強会でも、講師の話に対してはその通りだと思うが、自分たちのやっていることに結び付かなかつたりする。自分たちがやっていることを振り返るような啓発は意外としていない。そういったことを、この審議会委員で仕掛けて進めていくのもいいと思う。

また、このプラン(第2次)をみて思ったが、男女共同参画推進員の具体的な役割が

	<p>見えづらく、もっとできることがあると思う。それをプラン(第2次)に入れ込むためのアイデアが、今日だけでもかなりできそう。</p> <p>F委員： 私たちのグループでは、プラン(第2次)の中に、男女共同参画推進員が男女共同参画に関する地域リーダーになるという事が載せられているが、実際の男女共同参画推進員はあて職が多く、そういった方々にリーダーシップを求めることは非常に難しい事であるといった意見があった。</p> <p>ただし、市連絡会において、今年度から機構改革があり、今までのような、地域の支部ごとの活動ではなく委員会ごとに活動していく事となったため、そういう意味では今後、地域においてリーダーシップをとっていけるのかなとも思う。</p> <p>G委員： その男女共同参画推進員の中でリーダーシップ研修をする予定はあるか。</p> <p>事務局： 今のところ予定はない。</p> <p>渡邊会長： 今回の議論の中で実際にプランに組み込めるものもあつただろうと思う。これを踏まえて次回以降スケジュールをたてて進めていきたい。</p>
(4)副会長あいさつ	<p>今日はたくさんの意見を出していただき、良かったと思う。これからもプラン(第2次)の見直しに関して、自由闊達にご意見いただき、良いものしていければいいと思った。</p> <p>特に、「南砺市らしさ」についてご意見いただいた。プラン(第2次)が策定されたのは5年前だが、この5年間の間に時代が変わったのではないかと思う。「南砺市らしさ」は、ここに住む私たちにとっても非常にいいことだと思う。その上で、今後、2つのことについて話してみたい。1つは、アンケート調査について、まとめてリアクションをゴドモン等に掲載することで、回答いただいた方々に私たち審議員の反応を知っていただくことが大切だと思う。中にはそれを読んで、男女共同参画推進に参画して下さる方もいらっしゃるのではないかと思った。</p> <p>また、7月14日の男女共同参画勉強会の中で、小規模多機能自治を行っておられる31の地域づくり協議会の方々と男女共同参画について学んだ。事務局からも「初回」とあつたが、第2回、第3回と継続して実施され、男女共同参画推進について地域全体で広がっていくように、ぜひ実現されればと思う。</p>
(5)その他	<p>事務局： 今回の議論の中で、プラン(第2次)の中の「南砺市らしさ」の部分について疑問に持たれる方が多いと感じた。次回の審議会に向け、この言葉を無くしてしまうべきか、もしくは、変えるのであればどういった文言にすべきか、ということぜひ考えてきていただきたい。</p>

	<p>また、「基本目標1の(1)男女共同参画の意識の形成について」と、「基本目標5:男女共同参画社会を推進する体制づくり」の部分が特に重要だご意見いただいたと思う。どういった指標を含めることができるかというところを、ぜひ次回ご意見いただけたらと思う。そのほかにも気になられる点があればぜひ次回ご意見いただきたい。</p> <p>佐竹副会長:</p> <p>この「南砺市らしさ」という言葉が組み込まれた背景、当時どのような議論がでたのかを、事務局の方でぜひお調べいただきたい。</p> <p>事務局:</p> <p>承知した。議事録等、確認してみる。</p>
(6)閉会	午後9時15分